

2021 年度 第 2 回産業医部会幹事会 議事録

日時：2021 年 12 月 3 日（金）12：15～16：00

場所：三重県総合文化センター 男女共同参画棟 特別会議室・Web 会議併用

（敬称略）

出席：宮本俊明、小田原努、森口次郎、西條泰明^{*}、原俊之、各務竹康、菅原保^{*}、
大橋力、加藤憲忠、谷山佳津子、福本正勝^{*}、塚原照臣^{*}、西澤依小、石川浩二、
遠田和彦、西賢一郎、伊藤正人^{*}、岩根幹能、奥田昌之^{*}、真鍋憲幸^{*}、斎藤恵^{*}、
杉原由紀、池上和範^{*}、黒崎靖嘉

（監事）深澤健二^{*}

（オブザーバー）大神明専門医制度担当理事

^{*}：Web 参加

欠席：なし

1. 審議事項

①前回幹事会議事録の確認（資料 1）

石川幹事より議事録の確認があり、修正事項があれば 1 週間以内に連絡すること、それを受けて確定とすることとなった。

②ラウンドテーブルディスカッションと土肥先生推薦について

宮本部会長から、学会全体の企画として、化学物質に関する厚生労働省も含めたラウンドテーブルディスカッションが予定され、産業医部会と産業衛生技術部会を中心に対応することとなったこと、また先方から産業医部会へ土肥理事の推薦依頼があり、幹事会 ML で賛同が得られ、幹事会からも依頼したと報告があった。12 月に部会からのオブザーバーとして、小田原副部会長に代表で出席頂くこととなった。

③学会設立 100 周年記念事業について（資料 2）

宮本部会長より、コロナ禍で活動が止まってしまっていると報告された。また学会 100 周年事業に対しては、大会は 2027 年度が第 100 回、2029 年度が設立 100 周年となり食い違いがあると説明があった。

現状、9 地方会へ各種資料、情報の収集、保存を依頼したこと、部会長、常設委員会の委員長に依頼していること、医部会、看護部会が来年 30 周年となることから、各種保管を依頼したこと、今後研究会にも依頼していく方針が報告され、各幹事に所属地方会の中で各種資料の発掘依頼があった。また、資料はデジタル化していくと補足があった。

黒崎幹事から、今後の活動も対象かの確認があり、対象となることが確認された。小田原副部会長から、第 30 回全国協議会は、Web サイト、動画、ポスター発表データ、講演集、

議事録など各種資料を、データの形で本部へ提出したと報告があった。また、今後継続する場合は、提出物の取り決めがあった方よいと提案があった。塚原幹事より第94回大会へも依頼があったが未対応であると報告があった。今後、全国大会、全国協議会にしばって、提出を求める方向で進めることが確認された。

④専門医制度について

大神専門医制度担当理事より、今年度の学会専門医試験について、今回社会医学系専門医を経た受験者が初めての試験であったことが報告された。筆記は現地で、口頭は Web で実施したこと、来年度は現地開催予定で準備進めていることが補足された。

現状、研修手帳はデジタル化されているが、指導医は、手帳もしっかり指導してほしい旨依頼があった。また、専門医制度委員の交代が予定されており、産業医部会からも協力要請があった。

宮本部長から医部会からの推薦の可否について確認があったが、今回は既に委員会から個別に依頼しているため、次回以後の課題となった。

⑤2021年度産業医部会総会について

宮本部長より、コロナ禍の影響で、総会は昨年同様、産業医部会報での誌面開催となり、その後質疑応答はなかったことを確認した。それを受け、今回の幹事会で部会総会は成立したことが確認された。

⑥2022年度事業計画、予算案について（資料3、4）

石川幹事より、事業計画は例年どおりの内容を踏襲した内容として作成していると報告があった。また学会の重点事項14項目についての記載が求められ、各種活動をあてはめて作成したと説明があった。杉原幹事より第1回幹事会は5月27日になったことが補足された。

加藤幹事より、予算案について、各種科目の説明も含めて説明があった。Pコースの参加費は Web 開催になり参加者数制限で減少させたこと、全体として部会員の増員により会費収入が増えていることと部会報の支出双方が増えていることが補足された。また全体の収支は、累積プラスであるが、公益法人には遊休財産の保有制限があり、必要以上に内部留保がある状態は避けなければならないことから、赤字予算としていると説明があった。

宮本部長より、地方会医部会で活動資金が不足していて活動が停滞している場合は、希望があれば増加することも検討すると呼びかけがあった。

⑦医部会報について（編集委員会）（資料5）

谷山幹事より、73号が石川幹事の編集責任のもと1850部発送済であること、74号を谷山幹事が編集責任で12月号でなく1月号として編集作業中であることが報告された。また1月から4月の各地方会行事予定の提出依頼があった。各地方会名簿については、近日中に

各地方会担当幹事へ共有予定であること、部会員コーナーの募集として、各種活動や執筆された本の紹介などの推薦依頼があった。黒崎幹事より 72 号をHPへ掲載予定であると報告があった。石川幹事から、73 号については、彌富元幹事にも尽力いただいたと補足があった。

⑧プロフェッショナルコースについて

2022 年 1 月 22 日、23 日に、日本製鉄の長谷川会員が実行委員長として「新時代のセルフケア~未来のワークスタイルへのこころとからだの処方箋~」というテーマで準備を進めていることが報告された。今回も Web 開催であること、来年は現地開催予定だが、Web 開催のメリットもあり、今後 3 年に 1 回程度、Web 開催を検討していることが補足された。石川幹事から、Web 開催での収支の変化について確認があり、実地開催と比較して大差がないと回答があった。

⑨ポスター賞選考と表彰方法・名称・対象について（資料 6）

西條幹事より、住友電気工業の森貴大会員の演題が選出されたと報告があった。今回はポスターではなかったが、名称は昨年「ポスター発表優秀賞」と確定していたことで、それ以後はその名称で踏襲していくことになっており、また、今回の協議会の演題募集でも「ポスター」と呼称されていたことから、ポスター発表優秀賞の名称としたと説明があった。また、受賞演題が既に論文化されたものであることから、対象外とすべきという意見もあったが、選出基準の除外対象になっていなかったことから、今回は対象とした。今後、論文化以後の演題を対象外とするかについて議論が必要である、と問題提起があった。

また選考基準として、全国協議会は研究より実践性を重視する、という趣旨で進めるのがよいという意見が出された。

奥田幹事より、全国大会と、全国協議会の発表内容のすみわけの確認があり、宮本部長より全国大会は研究、学術系、全国協議会は現場の実践系という方針があったが、現状は双方明確なしぼりはない旨説明があった。各務幹事より、実践系と研究系の 2 つに分けて表彰する提案があった。二重投稿などについての件は学会理事会で検討頂くべきという結論になり、大橋幹事より理事会へ問題提起頂くこととなった。

今後の名称や、審査基準の方針について、審査委員の方で議論を進め、次回の幹事会へ諮ることとなった。

⑩学会内の委員会と部会の関係について（確認を含む）（資料 7）

宮本部長から、各種委員会について、幹事会メンバーの委員の確認、また部会推薦かどうか確認があった。

- ・編集委員会：森口副部長、塚原幹事、池上幹事
- ・許容濃度委員会：各務幹事、奥田幹事、塚原幹事

- ・生涯教育委員会：(部会推薦)、各務幹事、奥田幹事、伊藤幹事、遠田幹事
※担当理事推薦から 宮本部会長、森口副部長
 - ・専門医制度委員会：不在
 - ・政策法制度委員会：宮本部会長、森口副部長、菅原幹事、
 - ・倫理審査委員会：(部会推薦)、各務幹事。
 - ・産業保健看護専門家制度委員会：(部会推薦) 大橋幹事
 - ・学術委員会：森口副部長
 - ・広報委員会：(部会推薦) 黒崎幹事
 - ・中央選挙管理委員会：各務幹事
 - ・ダイバーシティ委員会：(部会推薦) 西幹事、※(地方会推薦)岩根幹事、齊藤幹事
- 今後、部会としての推薦委員は委員交代時には後任が必要となることが確認された。

⑪ホームページの活用、学会のメルマガ、HPについて

黒崎幹事より、現状の進捗報告があった。Pコース、自由集会やダイバーシティ委員会企画などをHPへ掲載したと報告があった。学会のメルマガについて、部会からの発信は、隔月で部長へ希望の有無が届くため、今後担当を置いて発信内容を検討することが提案された。担当は医部会報担当が適切という意見になり、谷山幹事が任命された。

幹事用MLについて、一部の幹事へ届かない事象について、大容量(5MB以上と推測)の場合は受信側の設定が原因と推測され、今後、発信メールは極力4MB以下にすること、またそれ以上のファイルを送信する場合は、本文のみ先に送信し、その後ファイル添付送信という運用が提案され承認された。

⑫第31回全国協議会(三重)自由集会について(資料8)

石川幹事から、12月4日の自由集会の企画内容について紹介があった。「自由集会」という名称では、企画運営側の中で、準備、各種連絡、運営などは企画側(部会)で対応、という考えになってしまい、それらが対象外となることから、名称変更も検討する案が出された。黒崎幹事、宮本部会長から、自由集会はよりクローズドな内容で議論できる、というメリットがあるという意見があり、「自由集会」という名称で継続し、今後それを意識した企画を検討いただくこととなった。

⑬第95回学会(高知)医部会フォーラムについて

杉原幹事から「新しい時代の産業医の働き方」というテーマで準備している旨報告があった。

⑭第32回全国協議会(北海道)自由集会について

原幹事から、クローズドな会を意識して、北海道では、産官学の連携がまだ十分でない

め、それぞれの分野から登壇いただき、後継者育成などの「ぶっちゃけトーク」のような企画をしていることが報告された。一方で、社会医学系専門医単位も該当する可能性から、自由集会というクローズドな会でなくなる可能性もあり、今後再検討すると報告があった。

⑮部会設立三十周年（2022）記念企画について

原幹事から看護部会も同様 30 周年のため、合同で準備していること、事例検討のワークショップを検討していることが報告された。

日頃悩ましい事例に対し、明治大学の原俊之（たかゆき）先生を招いた企画を検討していることが報告された。幹事会メンバーへ、意見収集の協力要請があり、今後原幹事へ意見を提出していくこととなった。

⑯部会員増へ向けて自由討議

宮本部部长から、10 年ほど前は 900 名であったが現在 1800 名へ倍増していることが報告され、さらなる増員へ向けて協力要請があった。

（ポスター発表優秀賞 表彰式：約 7 分）

⑰第 96 回学会（東京・宇都宮）および第 33 回全国協議会について

宮本部部长から、2022 年 5 月 10 日から 12 日、宇都宮にてハイブリット開催の予定で準備を進めていると報告があった。また塚原幹事より、第 33 回全国協議会は山梨で開催予定で、北陸甲信越地方会事務局も全面的に協力して準備していくと報告があった。

⑱役割分担表について（資料 9）

宮本部部长から再確認があった。産業保健看護専門家制度委員会について、小田原副部長を削除、ポスター発表優秀賞に黒崎幹事を追加することが確認された。

100 周年担当については、各地方会長と連携をとり、各種情報の収集について対応頂くことが確認された。菅原幹事より、部会員からの意見収集主担当の確認があり、幹事歴が長いことからそのまま担当頂くこととなった。池上幹事より、専門医制度委員会の主担当の役割の確認があり、大神専門医制度委員会担当理事からの情報を共有頂くことと確認された。

⑲次回幹事会の日程について

2022 年 2 月 20（日）14 時から 17 時に、Web 開催予定となった。

⑳その他 報酬関連等

宮本部部长より、部会予算の黒字部分の使用用途について課題であることの説明があった。学会編集委員会の査読へお礼を渡していることを例に、ポスター発表優秀賞の審査など

も同様に検討したが、広報担当、部会報編集担当、他の各担当幹事との線引きが難しく、今後検討していくこととなった。

大神専門医制度担当理事の幹事会出席その他各種協力へのお礼も提案されたが、理事ということで却下となった。

2. 報告事項

①第 31 回全国協議会準備報告

遠田幹事から、準備状況の報告があった。三重大学を中心に、ハイブリット開催で、感染対策チームを形成して毎日ストラップの色を変えるなど厳重に各種コロナ対策を実施して準備してきたことが説明された。会場によってオンライン対象外の企画もあることが補足された。一般演題以外のオンデマンド開催は 12 月 11 日からと決定されたことが確認された。

②第 32 回全国協議会について

原幹事より準備状況について報告があった。ハイブリット開催で 9 月 29 日から 10 月 1 日まで札幌コンベンションセンターでの開催に向けて準備中であることが報告された。

③第 94 回学会（松本）について（資料 10）

塚原幹事より、各種実績、協賛数などについて報告があった。また各幹事への協力に対してお礼があった。収支は現在監査中であるが、黒字となったと報告があった。

④第 95 回学会（高知）について（資料 11）

杉原幹事より、5 月 25 日から 28 日までの開催に向けて準備中であると報告があった。幹事会は 5 月 27 日の 15 時からを予定しており、その他の部会各行事、その他企画について、説明、報告があった。また、一般演題について、口演発表は現地で、ポスター発表はオンライン発表のみの予定であると補足があった。森口副部長から、医部会企画のシンポジウムについて補足説明があった。

⑤各種委員会報告

生涯教育委員会について、伊藤幹事より GPS の募集中で締切を 1 月末とする予定で進めていると報告があった。政策法制度委員会について、森口幹事より委員の交代が多くあり新委員を選任中であること、斉藤委員長と業務執行理事が意見交換を行い、ラウンドテーブルディスカッションののち、各種専門家の育成、現場の自律性管理の醸成等などについて取り組んでいく見込みであることが報告された。学術委員会について森口副部長より、最先端の研究の推進やシステムティックレビューなど幅広い活動が行われていること、現場と研究のギャップについて行ったアンケート結果の集計中であることなどが報告された。広報

委員会について、黒崎幹事から新 HP 準備中であること、会員から収集した写真もアップ予定であること等が報告された。ダイバーシティ推進委員会について、大橋幹事から本日の自由集会でオンライン学会についての企画があることなどの報告があった。また非常設委員会であるが、来年度以後も継続予定であることが補足された。部会推薦は西幹事のみで、大橋幹事は主担当理事であって委員ではなく、斎藤幹事と岩根幹事は地方会からの推薦委員と確認された。

⑥各担当幹事報告

森口副部長より、日本医師会の認定産業医のオンライン講習システムについて、20 単位中 5 単位を認めることを前提に、7 月に 1 回のみ実施したこと、認証システムの問題で進展が遅れていること、今後 E ラーニングの利用希望を出していく予定であることなどが報告された。

⑦理事会報告（資料 12）

大橋幹事より、業務執行理事の指名があり、森口副部長が任命されたこと、収支関連で、コロナ禍で支出が大幅に減少したことなどから、内閣府より学会としてガバナンスを強めるよう指摘があり、学会として対応検討中であることが報告された。内部留保額についての各種問題についても説明があった。その他、第 97 回産業衛生学会は中国地方会の予定であること、弁護士など単発の外部委員への報酬は、1 案件 2 万円とする予定であること、今後会員へ定期的にアンケート調査を行っていくこと等の報告があった。

⑧四部会長会議報告（資料 13）

宮本部長より、会議報告があった。四部会合同シンポジウムが明日開催予定であること、第 34 回全国協議会、第 98 回全国学会以後の開催地については今後再検討することとなったこと、部内予算の情報共有をしたこと、などの報告があった。

⑨各地方会活動報告

各地方会幹事より、活動報告、今後の予定の報告があった。小田原幹事より Web 開催の場合について、他地方会への参加募集について確認があった。宮本部長、福本幹事から、視聴者数の制限や事務的なマンパワーの問題があるが、制限されるものではないため、各地方会事情によって進めていけばよいことが確認された。

⑩部会から意見を出した安衛則第 633 条 634 条について（資料 14）

宮本部長から、事務所則が改正され、明るさの基準値が変更されたこと、トイレについて LGBT への配慮が加味された記載に変更されたこと、安衛則の救急用具について、特定の物品の内容の記載が削除されたことなどが報告された。またこれらについては、部会から

も意見を出したことから、行政からも部会へ感謝の意が伝えられたことが紹介された。

⑪その他

石川幹事より、第 29 回日本産業ストレス学会の紹介があった。

以上